

# 先天性甲状腺機能低下症の早期発見に関する研究報告書

久留米大学医学部小児科 山下文雄  
林真夫  
江崎泰之  
行実成徳

## 1. スクリーニングで発見されたクレチン症

女児6例, 男児2例をfollow upしている。症例のうち未熟児2例, CHD 3例(全てPDA)があった。治療開始は精査来院時に依存しているが, 1例(4生日より治療開始)を除き16生日より66生日の間に開始している。初診時の臨床症状はチェックリストで4~6点(1例のみ1点)であった。CHDやDown症候群を合併している症例では臨床症状の判定が困難であった。クレチン症児の発育に関しては, 死亡した1例を除き7例において検討した結果, 5例は正常の発育を示し, 骨年齢/歴年齢も正常範囲内であった。他の2例(1例はCHD, CHF, 他は未熟児CHD, Down症候群合併)において発育遅延が認められた。

治療開始とIQの関係は本スクリーニングにおいて非常に重要な問題である。我々の症例ではfollow up期間が短く, IQ測定可能な症例が少ないが, 津守・稲毛式と田中・ビネー式を施行し, DQ, IQを測定し検討した結果, ①合併症(CHD, Down症候群など)をもった症例においてDQ, IQの低下が認められた。②治療開始が早期であったにもかかわらずIQの低下を来した1例(症型は不明)がある。この症例は今後重要な問題を含んでいる。

## 2. スクリーニングで発見された一過性高TSH血症

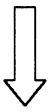
女児4例, 男児1例をfollow upしている。4例はチェックリスト0点, 1例のみ2点でスクリーニング時のdisc TSH値はクレチン症に比して低く,  $100\mu\text{U}/\text{ml}$ 以下であり, 大腿骨遠位端骨核径も全て5mm以上であった。

## 3. 甲状腺疾患児の心機能

非観血的な心エコーを用いて甲状腺疾患児の心機能を検討した。対象は甲状腺機能低下症児8名, 甲状腺機能亢進症児4名であった。甲状腺機能低下症児のLPEP/LVET値は $0.36\pm 0.07$ と正常に比し有意にSTIの延長を認めた( $P < 0.001$ )。また機能亢進症児では $0.22\pm 0.01$ と正常に比し有意の短縮を認めた( $P < 0.001$ )。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



- 1.スクリーニングで発見されたクレチン症
- 2.スクリーニングで発見された一過性高TSH血症
- 3.甲状腺疾患児の心機能